

今は試練の時～俯瞰のすすめ～

校長 栃倉 和則

おかげさまで二学期を迎えました。これまで毎朝、校門で学友たちを迎えてきましたが、まだ直接話をする機会があまりないことが少しだけ残念です。私たちは、今世紀最大の敵コロナとすでに二年近くも闘っています。デルタ株や若者への感染拡大など止まることなく、緊急事態宣言も再三に渡って繰り返されています。

この夏も、学友たちは夏期講習、部活動、記念祭準備などに取り組んでいました。しかし最も大切なのは安全、まだもう少し辛抱が必要です。暑いからと言ってマスクを外してしまうなど感染症対策を怠ることなく、慎重に努力を続けてほしいと願っています。

私事になりますが、若いころ大けがをして、二年近く病院のベッドの上で天井ばかりを見つめていました。時を経て、人並みの生活を送ることができるようになりましたが、古傷を眺める度に、苦しかった当時を思い出します。そして最も強く記憶に残っているのは、初めて外を歩けるようになった日の、太陽の眩しさ、空気の清々しさ。

松下幸之助は、「困難なことがあっても、長い人間の歴史を俯瞰してみれば、発展の一コマである。そうした見方ができるようになると、困難は困難でなくなり、打開・発展の道が見えてくる。」と言っています。近い将来、こうして皆がマスクをしていたことも、アクリル板の仕切りのことも、きっと懐かしく思い出す日が来る。そしてその時、私たちは確実に発展の道を進んでいる。そう信じて行きたいものです。

*Touch the Sky! TOYOTAMA!*